

氏名(本籍)	菅野幸子(茨城県)		
学位の種類	博士(医学)		
学位記番号	博甲第5122号		
学位授与年月日	平成21年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	日本医療の原典に見る「東洋医学」と史料に基づく古代「西洋医学」との比較文化史的研究		
主査	筑波大学教授	保健学博士	安梅勅江
副査	筑波大学教授	博士(医学)	朝田隆
副査	筑波大学准教授	薬学博士	田中榮之介
副査	筑波大学講師	博士(医学)	宮園弥生

## 論文の内容の要旨

### (目的)

学問の曙とされる古代ギリシャ時代は、医療の面においても優れたレベルにあったといわれており、特にヒポクラテスの名のもとに伝わる医療や思想は、今なお膨大な全集として残されている。その積極的な面は、これまで多くの医学史家によって強調されてきた。しかしながら、古代の文化遺産は2000年以上もの時代を経てきているだけに、現代の視点から誤った解釈がなされるのみならず、資料そのものの歪曲や加筆がなされていることが少なくない。このことから、現代の医学史研究においても、その実相を正しく把握できていない可能性は排除できない。したがって、本研究ではヒポクラテスの真の文化遺産を明らかにするために、『ヒポクラテス全集』の原典を、古代から現代への歴史性を踏まえたギリシャ語学力を駆使して分析することで、その核心に迫りつつ、現代医学として学ぶべき文化遺産の原点を明らかにすることを目的とした。

### (対象と方法)

以上の目的から、本研究の対象としたものは、研究当初としては、ヒポクラテスを知るための資料のすべてであり、1) 『ヒポクラテス全集』(Corpus Hippocraticum)の古代ギリシャ語原典、及びその現代語訳(英訳・独訳・仏訳・現代ギリシャ語訳・和訳)を出発点とした。

しかしながら、『ヒポクラテス全集』は写本を媒介として伝わっていることで、後世の加筆・修正が多くみられること、またヒポクラテス自身の手になる記述(真作)は極めて少ないことが判明した。この写本解読の限界を打ち破る一手法として、古代ギリシャの文化はギリシャ本国の中で自国の歴史的文化遗产としてしっかりと継承されている流れがあることに着目して、2) ギリシャの現地調査(生活と文化)および学術交流を積極的に行なった。その中で、当時の文化の最高峰である3) 哲学者の文献からヒポクラテスに関連した資料を抽出するとともに、哲学史の発展の法則性を指標として解読した。

さらには、人類の歴史はいかなる地域でも同様の発展をたどる法則性があることから、4) 古代東洋医療や思想に関する古典的文献(『史記』等)を比較文化史として対照させた。そして中国の医療、医学はその

原典が日本においてよく保存されており、また発展していることから、5) 日本の代表的医療書（『医心方』、『啓迪集』等）をも対象にした。

（結果）

- 1) 『ヒポクラテス全集』のうち、ヒポクラテス自身の真作と推定されるものは、全体の約7分の1しかないことが判明した。他の著作の大半は、古典時代後期～ヘレニズム時代までに執筆されたものであり、全体としてはレベルの異なる3段階の記述が混在している。
- 2) 通説とされていたヒポクラテスの「自然治癒力」という概念は、「自然」という言葉を体内の自然の働きに限定して解釈していた点が誤りである。ヒポクラテスの「自然」は、病気の症状により乱れた体液を調和させようとする体内の働きが、外界の自然との調和においてなされることを意味する、より広い概念であることが判明した。
- 3) ヒポクラテスらの古代の医師たちは、国家における要人のみを診療していたことが推測され、生活上の不摂生により健康を崩す者が多かったことが推測された。
- 4) 古代ギリシャでは、戦争に関わっての外傷や、不適切な食事に関わる食あたり、労働による体の歪みと見られるような、単純な病気がほとんどであり、治療も切開や単種の植物などを用いた薬物療法が主で、あったことが判明した。古代ローマから慢性病と見られるものが多発したことが疑われるが、ローマにおいては国力の増大に伴って、特に食事や調理法が発達し、多様化してきた。このことが、病気の多様性の背景の一つにあることが推測された。
- 5) 古代の東洋医療は、古代のヒポクラテスらの医療と同様に、病を全体としてとらえ、「自然と病との関連性」を看取し、自然との調和をはかることに医療の本質を見て取るという一般性が把握されていることが判明した。

（考察）

東洋と西洋とでは医療の発展に相関関係が認められ、特に初期医療の発展は共通性があると考えられる。人類史における病は、はじめから複雑なものとして生まれたのではなく、自然に密着した単純な病気から始まり、次第に複雑なものへと発展していったのであり、これは生活の発展、特に食事の発展に従った発展であることが疑われた。またそれに見合って、医療も単純なものから複雑なものへと発展していったことが推測された。病は外界の自然との調和が崩れ、それが体内の調和を崩したことにより発生するという把握は東西共通のものであり、病気一般を把握するための指針となるものと考えられる。

（結論）

自然と病気を統一して把握し、両者の関連性と調和の回復に着目したヒポクラテスが把握した病気と治療の一般性は、現代もなお医療の本質を捉えたものとして重要な概念であると考えられる。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

東洋医学と西洋医学について比較文化的な手法を用いて原典をていねいに解読し、現代医学の根底に流れる哲学的な意義を新たに発見した点はオリジナリティとして高く評価される。

自然と病気を統一して把握し、両者の関連性と調和の回復に着目した医学哲学の展開を踏まえ、今後さらに医学教育への具体的な活用方法等への発展を期待する。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。